

平成20年度 北方圏交流基金助成実績

(単位:千円)

区分	助成対象		助成額 (千円)	場所	時期	内容
	事業名	主催者				
文    化	北海道陶芸会作品展	北海道陶芸会	400	オレゴン州	4月	<p>本会設立40年を機に活動の場をアメリカ西北部に広め北海道及び日本の陶芸技術の進展と紹介啓蒙を行い、日米間の文化交流の推進を図った。</p> <p>本会とオレゴン陶芸家協会の合同作品展・デモンストラーションの実施により、アメリカの陶芸家及び一般市民との交流を深め、北方圏同士の文化の相互理解を図った。</p>
	カルチャーナイトサミット	カルチャーナイト実行委員会	400	札幌市	7月	<p>カルチャーナイト発祥の地である北欧4カ国（スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランド）とインターネットを使用して、お互いの国のカルチャーナイトの特徴、文化などを紹介して理解を深め、国際交流・北方圏交流を図った。</p> <p>会場では、大型スクリーンに各国のカルチャーナイト紹介のDVDの放映を交えるなどして、参加者にカルチャーナイトをより深く理解してもらった。</p>
	「北海道・四季の美」 栗谷川健一と袴田睦美の芸術	(財)北海道北方博物館交流協会	400	ウラジオストク ハバロフスク ユジフサリンスク	7月 ～ 11月	<p>北海道を代表する版画家栗谷川健一氏の風景画30点と袴田睦美氏による北海道に自生する植物の絵画15点を、ロシア極東の3都市で開催し、北海道の自然の美しさとすばらしい環境の模様を伝え、文化における北方圏の相互理解と市民交流の促進を図った。</p>
	カンテレキャンプ in 北海道2008	カンテレキャンプ in 北海道実行委員会	350	小樽市	9月	<p>フィンランドの一流音楽家を主たる講師に迎え、伝統楽器「カンテレ」及びフィンランドの伝統音楽の講習会、演奏会を行うことにより、北方圏の豊かな伝統文化を広く伝えるとともに、深く学び、交流する機会を設けた。</p> <p>また、国内のカンテレ愛好家、フィンランド音楽愛好家の技術や音楽性の向上を図ることにより、文化交流と北方圏理解の促進にも寄与した。</p>
	ハイメス創立20周年記念国際フォーラム	北海道国際音楽交流協会	400	札幌市	8月	<p>当協会の創立20周年を記念し、長い交流実績のあるノボシビルスク市長ゴロデツキー氏及び同市のグリーンカ音楽院のグーレンコ学長など関係者を招聘し、北方圏地域同士の、今後の更なる音楽文化交流の進展を目的にシンポジウムを開催した。</p>
	提携10周年ロシア・サハリン芸術団北海道公演	提携10周年ロシア・サハリン芸術団北海道公演実行委員会	500	札幌市 旭川市他	9月	<p>北海道とロシア・サハリン州との間で、友好・経済協力に関する提携がされて以降、両地域の間で、文化、芸術、スポーツ、教育、青少年交流など多方面にわたる友好・協力の活動が活発化してきた。この提携10周年を機にロシア・サハリン州から芸術性豊かなアンサンブルを招き、多くの道民の鑑賞により、日ロ両国の文化交流を促進するとともに、相互理解を深めた。</p>

文 化	—北方音楽交流— MUSICA 織音コンサート	—北方音楽交流— MUSICA 織音	300	札幌市	11月	伝統楽器として限られた分野にとどまらちな邦楽器と西洋楽器との融合を試みるため1996年に発足した当組織は、これまで、中国・ロシア・フィンランドの第一線で活躍するアーティストと共にクリエイティブな音楽を追求してきた。 今回はこれまでの実績を基に、新しい音楽創造へ向かっての再スタートを切るため、北方圏のロシア・中国・フィンランドからアーティストを招き、北方圏同士の音楽交流を図った。
	北方圏センター30周年記念 音楽会 ～北欧の魂を詩う～	(社) 北方圏センター	300	札幌市	10月	設立30周年を記念し、北欧の音楽をレパートリーとしている札幌在住の歌手を中心に、フィンランドのギタリスト、フィンランドの交響楽団の指揮もしている在日ヴァイオリニストなどを招聘し、北欧の音楽を主体とした音楽会を実施し、北方圏の音楽を紹介した。
	二胡・琵琶・揚琴・古箏 中国民族楽器悠久の調べ	函館日中友好協会	200	函館市	12月	中国瀋陽市、瀋陽音楽学院の若手民族楽器演奏者を招聘してのコンサート開催により、道南地域の人々と中国民族音楽を通じた交流を図った。 また、滞在中、高等学校訪問、音楽活動団体との交流、FM放送への出演などを通じ、各界各層との交流をし、北方圏地域相互の交流を深めた。
	「遊牧の民の調べコンサート」	NPO北方アジア文化交流センターじゃがぁ	250	京極町 ニセコ町 ほか	1月～ 3月	モンゴル文化の紹介、異文化理解、国際交流を目的に、このような機会が少ない、小学校、幼稚園などに赴き、モンゴルの民族楽器、馬頭琴、カザフのドムブラの演奏を実施し、併せて、ゴビとアルタイ遊牧民の世界を紹介するスライド・トークを実施した。
経 済	ロシア極東地域北海道フェア	ロシア極東地域北海道フェア実行委員会	400	ハロフスク ウジウジ	10月	経済成長著しいロシア連邦極東地域に於いて、本道の基幹産業で、比較優位にある道産食品の高品質性と優秀性を現地食品関連企業や消費者などに幅広く紹介し、北海道産食品の現地での浸透、経済交流活性化を目的として、北海道フェアを開催した。
交 流	北海道・ロシア極東交流事業	北海道・ロシア極東交流事業実行委員会	500	札幌市 ほか	7月 8月	① 市民交流会議 北海道とサハリン州の市町村関係者、自然保護・環境保護団体、社会友好団体、学生、企業、報道関係者等が一堂に会し、「環境問題：現状と課題、相互の協力関係」についての会議を開催した。 ② 「体験・友情」の船 サハリン州から青少年80名を受入れ、北海道の青少年と多方面での交流を行い、国境を越えた青少年同士の友情を育むため、平和の誓い、文化交流、自己研修などを実施した。
	「世界の料理教室」	「世界の料理教室」実行委員会	420	札幌市 ほか	9月 ～ 11月	北方圏地域を中心に、友好関係が深い国際交流団体等が連携して実行委員会を組織し、それぞれの関係国の料理教室を開催し、北方圏地域を初め、世界の料理に親しむ機会をつくと共に、異文化理解に対する関心を高めた。

交 流	創造資源開発事業	(財) さっぽろ産業振興財団	250	札幌市	10月 ～ 3月	国内外の様々な都市の先端芸術等を専門とした団体やアートスペースなどの「創造拠点」との間において、クリエイター、アーティスト、コーディネーターの人材交流を実施した。北方圏を含む外国からの招聘者は、ワークショップや展覧会、講演などを通じ、市民との交流を行い、招聘期間終了時には滞在報告会を実施した。他都市への派遣者は帰札後、派遣先での活動についての報告会を行った。同時にこうした拠点間の交流を通じて、北方圏を含む国内外の様々な「創造拠点」を調査し、地域の芸術文化やクリエイティビティを育むためのシステムを研究した。
	北海道ジュニアジャンプ選手合宿交流会	札幌スキー協会 荒井山ジャンプ少年団	250	札幌市	3月	共催団体は、スキー・ジャンプにおけるジュニア層の底辺拡大及び選手強化対策として、ノルディック先進国のフィンランドとの間で、2002年から選手を隔年ごとに派遣する交流事業を実施してきた。今回は、宮様スキー大会が80回目の記念大会を迎えることから、同一年内の相互派遣とし、札幌では、合宿交流会を開催し、ホームステイなどを通じて、ジャンプ少年の人的交流、技術交流を図った。
	サケ学習国際交流カナダ派遣事業	北海道サーモン協会	350	カナダ	3月	「サケ学習国際交流」を通じて、北方圏の生態系や国際的視野に立った地球的自然環境を体験的に学習させるとともに、他国の文化や自然に対する考え方や相互理解を深め、グローバルな視点を持つ人材育成に努めた。この事業を通じ、児童生徒による北方圏交流の促進を図った。
催 事	なよろ雪質日本一フェスティバル	NPOなよろ観光まちづくり協会	300	名寄市	2月	昭和27年のスキー国体を契機に実施してきた「雪人形コンクール」を発展させ、平成12年からこの名称で事業を開催してきた。このフェスティバルでは、芸術性も折り込みながら、北方圏地域を含む海外からの雪像彫刻チームを招聘しての雪像ジャパンカップ国際部門など3部門で文化性を競いながら、国際色豊かな交流の場としている。
	第21回昭和新山国際雪合戦開催事業	昭和新山国際雪合戦実行委員会	300	壮瞥町	2月	1988(昭和63)年に冬の地域活性化を目的として「雪合戦」をスポーツとして再生し、観光振興や地域間交流の促進を図るとともに、北国に根ざしたイベントとしての「雪合戦」を北欧にも発信するなどして北方圏交流にも貢献してきた。今では150チーム以上も参加する国際的なスポーツに成長するとともに、フィンランド、ノルウェー、ロシアでも開催されるに至っている。今回の開催に当たっては、特に広報活動の一層の充実を図ることとし、英語版ホームページの改善・活用を図るほか、大会期間中、英語で会場でのルール解説を行うとともに、新たに北方圏の生活文化等の周知を付加するなどして、外国人の理解を得やすくし、今後とも北方圏地域全体への雪合戦の普及に努めた。また、カナダ、オーストラリアにも初めて雪合戦情報を提供した。

合 計	18件	6,270	
-----	-----	-------	--